

# BNYメロン・日本株式ダイナミック戦略ファンド

愛称: 臨機応変

追加型投信 / 国内 / 株式・株価指数先物取引 / 特殊型(派生商品型)



基準日: 2018年12月28日(金)

## ファンドの特色

- 主として、わが国の金融商品取引所上場株式(上場予定を含みます。)の中から、企業の成長性と株価の割安性の両方を考慮した銘柄に投資を行います。
- 株式市場の上昇、下落それぞれの局面においてリターンを最大化することを目指し、株価指数先物取引を用いて実質的な株式組入比率を調整します。

## ファンド概要

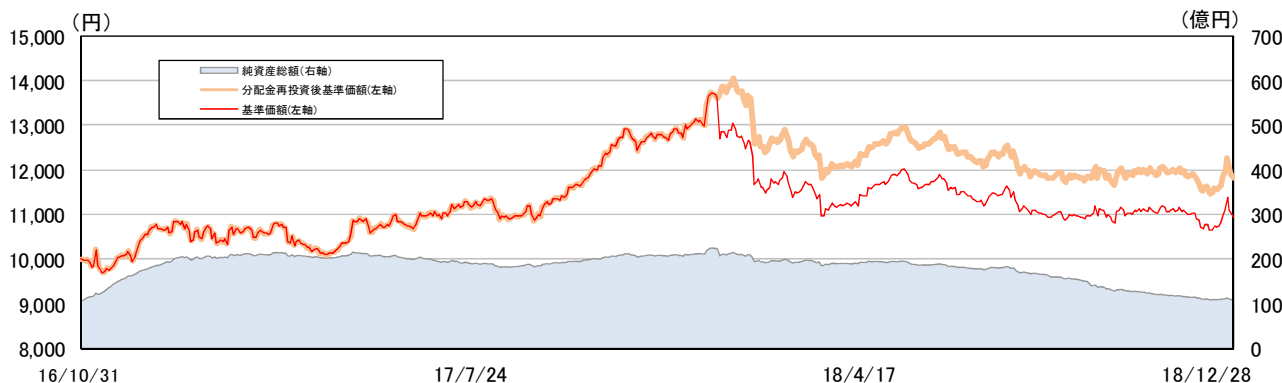
- 設定日: 2016年10月31日
- 信託期間: 2016年10月31日から2026年10月13日まで
- 決算日: 毎年1月14日  
(休業日の場合は翌営業日)

## ファンドの状況

基準価額	10,951円	(前月末比)	-85円
純資産総額	108.0億円		

※基準価額は1万口当たりとなっています。

## 基準価額と純資産総額の推移



※基準価額は信託報酬控除後のものです。

※分配金再投資後基準価額は、課税前分配金を再投資したもとして計算していますので、実際の基準価額とは異なります。

※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。

## ファンド騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	-0.77%	-1.48%	-4.66%	-9.03%	-	18.15%
TOPIX	-10.40%	-17.78%	-13.68%	-17.80%	-	7.30%

※ファンドの騰落率は課税前分配金を再投資したもとして計算しています。

※設定来については、設定時の基準価額10,000円を基準として計算しています。

## 分配金実績(1万口当たり、課税前)

決算日	2017年 1月	2018年 1月	-	-	-	設定来 累計
分配金	0円	1,000円	-	-	-	1,000円

※分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。ただし、運用状況等によっては、委託会社の判断で分配金の金額が変わる場合、又は分配金が支払われない場合があります。

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。

## ポートフォリオ構成比

	構成比
株式	80.67%
投資信託・投資証券	0.00%
現金等	19.33%
合計	100.00%
株価指数先物	-131.48%
実質株式組入比率	-50.81%

※現金等は、純資産総額から株式と投資信託・投資証券の比率を差し引いた構成比です。

※株価指数先物は、株価指数先物取引(TOPIX先物)の組入比率です。(買建ての場合はプラス表示、売建ての場合はマイナス表示としております。)

※実質株式組入比率は、株式と投資信託・投資証券の合計比率と株価指数先物の比率を合算した構成比です。

## 要因分析(単位:円)

市場効果(株式)	-1,015
戦略効果	+962
日本株式アクティブ戦略	-105
市場リスク管理戦略	+1,067
投資信託・投資証券	-17
分配金	0
信託報酬等	-15
合計(基準価額変動額)	-85

※上記要因分析は、BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が一定の基準で算出した参考数値です。

※各戦略についての詳細は次頁以降をご参照ください。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的にBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●ファンドは、主に国内株式に投資を行いますので、株式の価格変動等の影響により基準価額は上下し、投資元本を割り込むことがあります。●ファンドに生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。●お申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。●市況動向、資金動向その他の要因等によっては、ファンドの特色に合致した運用ができない場合があります。

# BNYメロン・日本株式ダイナミック戦略ファンド

## 愛称: 臨機応変

追加型投信 / 国内 / 株式・株価指数先物取引 / 特殊型(派生商品型)



基準日: 2018年12月28日(金)

### 日本株式アクティブ戦略部分の運用状況

日本株式アクティブ戦略では、BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパンが運用を担当しており、中長期的に上昇が期待される日本株への投資を通じた収益の獲得を目指しています。

### マーケット動向

12月の国内株式市場は、引き続き米中貿易摩擦や米政府機関の一部閉鎖などを懸念した世界的な株安、世界経済と企業業績に関する見通しの悪化等に伴い、月初より下落基調が続き、大幅下落となりました。TOPIXは前月比-10.40%の下落となりました。カナダ司法省が中国通信機器大手ファーウェイ副会長を逮捕したとの発表を受け、米中関係の悪化が懸念されました。19日米連邦公開市場委員会(FOMC)で市場予想通り0.25%の利上げが発表されたものの、パウエル米連邦準備制度理事会(FRB)議長の記者会見を受けて世界の景気減速と米国の金融引き締めが同時に進むとの警戒感が浮上しました。年明けまで米政府機関の一部閉鎖が長引くとの見方が広がり、相次ぐ主要閣僚の辞任発表、トランプ大統領のFRBの金融政策批判も伴い、投資家のリスク回避姿勢が強まりました。日銀の金融政策決定会合で追加の市場刺激策に言及が無かったことや、2018年7-9月期の実質GDP成長率(実質季節調整系列、二次速報)が前期比年率-2.5%と一次速報(前期比年率-1.2%)から大幅に下方修正されたことも相場の重石となりました。2018年暦年での日銀による上場投資信託(ETF)買入れ累計は6兆円を突破し暦年では過去最高となり、12月の日銀短観では大企業全産業の2018年度の売上高計画が前年度比+3.3%(修正率+1.0%)と上方修正されて2年連続の増収が見込まれましたが、相場に与える影響は限定的でした。業種別騰落率に関しては鉱業、医薬品、証券・商品先物取引業などの業種を中心に全ての業種で前月末比株価が下落しました。サイズ別には相対的に大型株優位の相場展開となりました。

### 運用状況

当ファンドの当月末の基準価額は10,951円となり、当月のパフォーマンス(課税前前分配金再投資ベース)は、-0.77%となりました。12月の日本株式アクティブ戦略部分のパフォーマンスは、市場の動きを下回りました。相対パフォーマンスでは、陸運業、不動産業、電気機器などの業種がマイナスに寄与しました。

### 運用担当者コメント

2018年は日経平均株価指数で見ると安倍政権発足以来初の年足陰線ということになり、私共市場参加者は一様に暗い面持ちでの年越しとなってしまいました。内外ともに株価は9-10月にピークを付け、第4四半期で大幅に調整しました。主要株価指数で高値から安値まで概ね-20%の下落となりましたが、今や世界の代表銘柄の地位に駆け上がったGAFA(Google, Apple, Facebook, Amazon)の多くはこの3か月間で約40%もその時価総額を失いました。中にはAppleのようにその主力商品の売れ行きが芳しくなく、業績の下方修正を強いられているものもありますが、大半は業績というよりは市場参加者の期待値の剥落と言った方がしっくり来る気がします。今や世界中でそのビジネスモデルが礼賛され、目にしない日がないほどメディア等への露出も高まりました。株式市場で言えば総強気の状態になってしまった訳です。折しも経営学の世界ではセンスメイキング(意味付け・納得と訳されることが多いようです)なる分野が注目されつつあるようで、ビッグデータや機械学習といったSTEM(科学・技術・工学・数学)至上主義の時代にイノベーションを生み出す企業経営には人文科学的要素を含む幅広い教養が必要だとする立場のようです。世の中の潮流は益々テクノロジードリブンのようになるでしょうが、投資家の立場としてもセンスメイキングな感覚を研ぎ澄ませておきたいものです。

※ 上記はファンドの投資対象をご理解頂くための例示を目的としたものであり、個別銘柄を推奨するものではありません。また、ファンドへの組入れを保証するものではありません。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的にBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●ファンドは、主に国内株式に投資を行いますので、株式の価格変動等の影響により基準価額は上下し、投資元本を割り込むことがあります。●ファンドに生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。●お申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。●市況動向、資金動向その他の要因等によっては、ファンドの特色に合致した運用ができない場合があります。

# BNYメロン・日本株式ダイナミック戦略ファンド

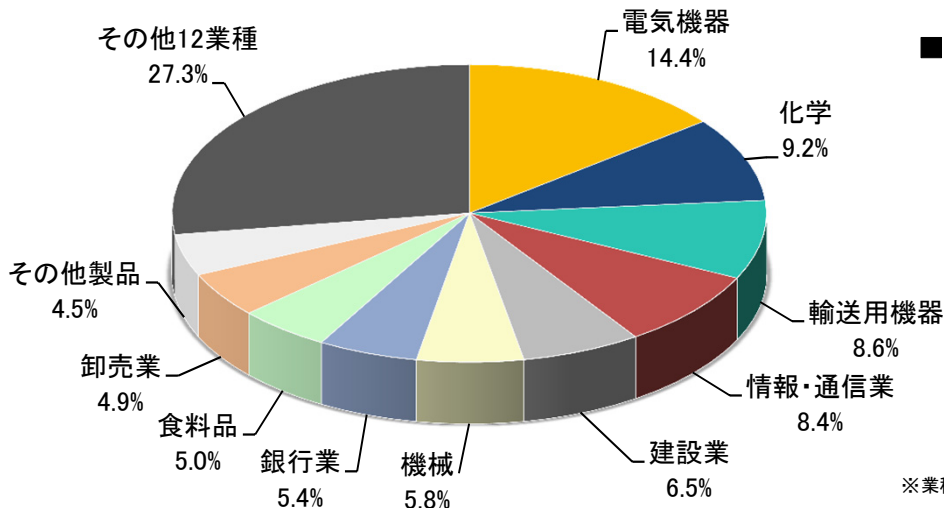
愛称: 臨機応変

追加型投信 / 国内 / 株式・株価指数先物取引 / 特殊型(派生商品型)



基準日: 2018年12月28日(金)

## 業種別構成比



■ 組入銘柄数: 55銘柄

※業種は東証33業種分類に基づきます。

## 組入上位5銘柄

銘柄名 (銘柄コード)	市場	業種	構成比
1 日本電産 (6594)	東証一部	電気機器	3.3%
2 HOYA (7741)	東証一部	精密機器	3.2%
3 ニチレイ (2871)	東証一部	食料品	3.0%
4 三菱UFJフィナンシャル・グループ (8306)	東証一部	銀行業	2.9%
5 トヨタ自動車 (7203)	東証一部	輸送用機器	2.8%

## TOPIXに対してウェイトが大きい5業種

業種	ウェイト当ファンド	TOPIX	差
1 建設業	6.5%	3.1%	3.4%
2 その他製品	4.5%	2.1%	2.4%
3 その他金融業	3.4%	1.2%	2.2%
4 電気機器	14.4%	12.7%	1.8%
5 化学	9.2%	7.5%	1.7%

## TOPIXに対してウェイトが大きい5銘柄

銘柄名 (銘柄コード)	ウェイト当ファンド	TOPIX	差
1 ニチレイ (2871)	3.0%	0.1%	2.9%
2 日本電産 (6594)	3.3%	0.7%	2.6%
3 HOYA (7741)	3.2%	0.6%	2.5%
4 協和エクシオ (1951)	2.4%	0.1%	2.4%
5 ニフコ (7988)	2.4%	0.0%	2.3%

## TOPIXに対してウェイトが小さい5業種

業種	ウェイト当ファンド	TOPIX	差
1 陸運業	1.5%	4.9%	-3.5%
2 医薬品	2.1%	4.9%	-2.8%
3 サービス業	3.2%	4.8%	-1.6%
4 小売業	4.0%	5.3%	-1.3%
5 銀行業	5.4%	6.5%	-1.1%

## TOPIXに対してウェイトが小さい5銘柄

銘柄名 (銘柄コード)	ウェイト当ファンド	TOPIX	差
1 ソニー (6758)	0.0%	1.7%	-1.7%
2 日本電信電話 (9432)	0.0%	1.4%	-1.4%
3 本田技研工業 (7267)	0.0%	1.2%	-1.2%
4 みずほフィナンシャルグループ (8411)	0.0%	1.1%	-1.1%
5 KDDI (9433)	0.0%	1.1%	-1.1%

※上記データは、BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社がファクトセットを用いて算出しています。  
 ※上記構成比は株式運用部分の評価金額に対する比率です。  
 ※上記データは小数点第二位以下を四捨五入して表示しており、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的にBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●ファンドは、主に国内株式に投資を行いますので、株式の価格変動等の影響により基準価額は上下し、投資元本を割り込むことがあります。●ファンドに生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。●お申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目録見書)をお渡しますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。●市況動向、資金動向その他の要因等によっては、ファンドの特色に合致した運用ができない場合があります。

# BNYメロン・日本株式ダイナミック戦略ファンド

## 愛称: 臨機応変

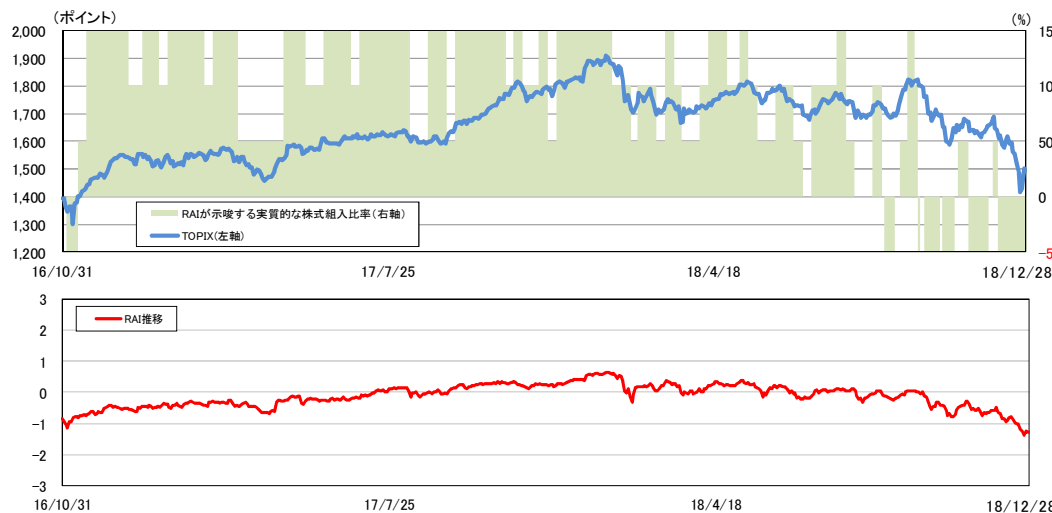
追加型投信 / 国内 / 株式・株価指数先物取引 / 特殊型(派生商品型)

基準日: 2018年12月28日(金)

### 市場リスク管理戦略部分の運用状況

市場リスク管理戦略では、BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が日興グローバルラップの助言に基づき、市場環境に応じて実質的な株式の組入比率の調整を行います。

### RAI(注)が示唆する実質的な株式組入比率の推移(設定来)



(注)RAI(Risk Appetite Index)は、投資家のリスク選好度合いを測るために世界各国の様々な金融データ(VIX指数、ハイイールド債の動きなど)を当ファンドの投資助言会社である日興グローバルラップ株式会社が独自の手法で組み合わせて算出したものです。日本株は外国人投資家が売買の過半数を占めるため、世界の金融データからグローバルな投資家動向を予測するRAIが日本株の動向予測にも威力を発揮するものと考えられます。

RAIが示唆する月末  
(12月28日(金))時点の  
実質的な株式組入比率

**-50%**

※RAIが示唆する実質的な株式組入比率とは、あくまでも目標であり実際のファンドの実質的な株式組入比率とは異なる場合があります。

### 運用状況

当ファンドは11月下旬にRAI(リスク・アパタイト・インデックス)が上昇し、投資環境の改善を示唆したことから、12月3日に株式投資比率を50%に引き上げてスタートしました。その後、株式関連指標の悪化などによりRAIが低下したことから、6日に株式投資比率を-50%まで引き下げました。その後、RAIは低下基調となったことから、月末まで株式投資比率-50%を維持しました。

12月の日本株式市場は、米国景気の減速懸念や米中对立の激化懸念などを背景とした米国株式市場の大幅下落に追随し、年初来安値を更新するなど大幅に下落する展開となりました。その結果、TOPIXの月間騰落率は-10.40%の下落となり、株式投資比率の引き下げが奏功しました。

月間の市場リスク管理戦略部分は、プラスの効果となりました。

### (ご参考) 株価指数先物とは?

株価指数を対象とした先物取引のことで、株価指数について将来の一定時期に受け渡す(=決済する)条件で、現時点で決済価格を決める取引です。株価指数先物の収益は、売りと買いで異なります。

#### < 株式市場の動きと株価指数先物の損失の関係 >

株式市場	上昇↑	下落↓
株価指数先物(売り)	損失	利益
株価指数先物(買い)	利益	損失

当ファンドでは、株式市場の上昇期待が高まっていると判断される局面では、実質的な株式組入比率を最大150%に引き上げる(株価指数先物である「TOPIX\*先物」を買う)ことで、株式市場を上回るリターンを獲得、また、下落リスクが高まっていると判断される局面では、実質的な株式組入比率を引き下げる(「TOPIX\*先物」を売る)ことで、下落リスクを抑制することを目指します。更に下落リスクが高いと判断される局面では、実質的な株式組入比率を-50%に調整する(「TOPIX\*先物」を売る)ことで、下落局面でもプラスのリターンを獲得することを目指します。

\*TOPIX: 東証株価指数(Tokyo Stock Price Index)の略称であり、東証市場第一部上場のすべての銘柄の株価を基にして算出される指数です。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的にBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●ファンドは、主に国内株式に投資を行いますので、株式の価格変動等の影響により基準価額は上下し、投資元本を割り込むことがあります。●ファンドに生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。●お申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目録見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。●市況動向、資金動向その他の要因等によっては、ファンドの特色に合致した運用ができない場合があります。

# BNYメロン・日本株式ダイナミック戦略ファンド

## 愛称: 臨機応変

追加型投信 / 国内 / 株式・株価指数先物取引 / 特殊型(派生商品型)

基準日: 2018年12月28日(金)

### 投資リスク

#### 基準価額の変動要因(主な投資リスク)

当ファンドは、主としてわが国の株式への投資を行うと同時にデリバティブを活用しますので、組入れた有価証券等の値動きにより、当ファンドの基準価額は大きく変動することがあります。

当ファンドは、元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により解約・償還金額が投資元本を下回り、損失を被る可能性があります。運用により信託財産に生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。当ファンドは、預貯金とは異なります。預金保険または保険契約者保護機構の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

<b>実質的な株式組入比率の調整に関するリスク</b>	当ファンドは、市場の状況により、デリバティブ(株価指数先物取引)を用いて実質的な株式組入比率を調整し、純資産総額の-50%~+150%の範囲内でコントロールすることを原則とします。当ファンドの現物株式部分の運用は委託会社の日本株式運用チームによるアクティブ運用であるため、当ファンドの基準価額は、意図した実質株式組入比率を反映した動きとはならないことがあります。実質投資割合は信託財産の純資産総額を超える場合があります。委託会社の判断と反対方向に株式市場が動いた場合、想定以上に損失が膨らむことがあります。また、実質的な株式組入比率が-50%の場合は、株式市場が上昇しても当ファンドの基準価額は下落することがあります。
<b>価格変動リスク</b>	株式の価格動向は、個々の企業の活動や、国内および国際的な政治・経済情勢の影響を受けます。そのため、当ファンドの投資成果は、株式の価格変動があった場合、元本欠損を含む重大な損失が生じる場合があります。
<b>株式の発行企業の信用リスク</b>	当ファンドは、株式への投資を行うため、株式発行企業の信用リスクを伴います。株式発行企業の経営・財務状況の悪化等に伴う株価の下落により、当ファンドの基準価額が下落し元本欠損が生じるおそれがあります。発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金がほとんど回収できなくなることがあります。
<b>流動性リスク</b>	流動性リスクは、有価証券等を売却あるいは購入しようとする際に、買い需要がなく希望する時期に希望する価格で売却することが不可能となることあるいは売り供給がなく希望する時期に希望する価格で購入することが不可能となること等のリスクのことをいいます。市場規模や取引量が小さい市場に投資する場合、また市場環境の急変等があった場合、流動性の状況によって期待される価格で売買できないことがあり基準価額の変動要因となります。
<b>デリバティブ取引のリスク</b>	当ファンドは、有価証券および金利関連のデリバティブに投資することがあります。デリバティブの運用には、ヘッジする商品とヘッジされるべき資産との間の相関性や流動性を欠く可能性、証拠金を積むことによるリスク等様々なリスクを伴います。実際の価格変動が見通しと異なった場合に、当ファンドが損失を被るリスクを伴います。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

#### その他の留意点

<b>クーリング・オフ</b>	当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
<b>収益分配金にかかる留意点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収益分配金は、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。したがって、収益分配金の水準は、必ずしも計算期間中におけるファンドの収益率を示すものではありません。</li> <li>受益者のファンドの購入価額によっては、収益分配金の全額または一部が、実質的には元本の一部払い戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。</li> <li>収益分配金は、ファンドの純資産から支払われますので、収益分配金の支払後の純資産は減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中の運用収益以上に収益分配金の支払を行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比較して下落することになります。</li> </ul>

#### リスクの管理体制

ファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門における日々のモニタリングに加えて、運用部門から独立した組織体制においても行っています。

##### [投資政策委員会]

ファンドの運用計画案の審議、運用実績の評価、運用に関する法令および内部規則の遵守状況の確認、最良執行に関する方針の策定および確認を行います。

##### [コンプライアンス・リスク管理委員会]

コンプライアンスおよびリスク管理に関わる事項等の審議・決定を行い、委託会社の法令遵守・リスク管理として必要な内部管理態勢を確保します。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的にBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●ファンドは、主に国内株式に投資を行いますので、株式の価格変動等の影響により基準価額は上下し、投資元本を割り込むことがあります。●ファンドに生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。●お申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。●市況動向、資金動向その他の要因等によっては、ファンドの特色に合致した運用ができない場合があります。

# BNYメロン・日本株式ダイナミック戦略ファンド

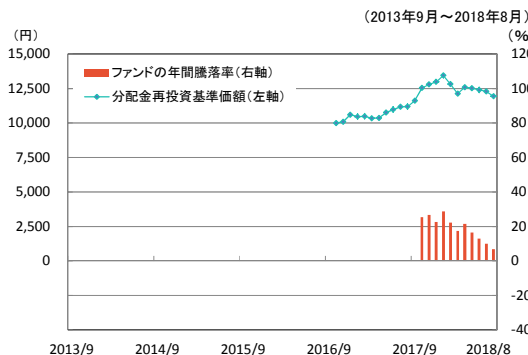
愛称: 臨機応変

追加型投信 / 国内 / 株式・株価指数先物取引 / 特殊型(派生商品型)

基準日: 2018年12月28日(金)

## 参考情報

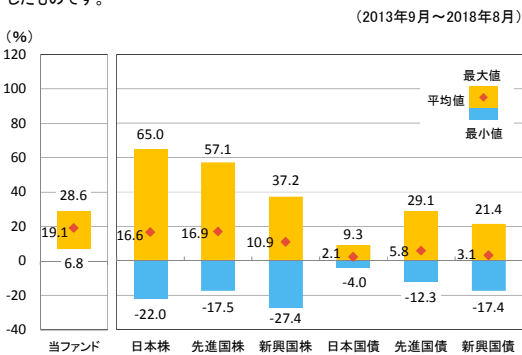
### 当ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



- \* 年間騰落率は、2017年10月～2018年8月(当ファンドの設定日は、2016年10月31日です。)の各月末における直近1年間の騰落率を示しています。
- \* 年間騰落率は、税引き前収益分配金を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。また、分配金再投資基準価額は、税引き前収益分配金を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。

### 当ファンドと代表的な資産クラス\*との騰落率の比較

グラフは、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。



- \* グラフは、2013年9月～2018年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。
- なお、当ファンドについては、設定日が2016年10月31日のため、2017年10月～2018年8月の数値であり、単純な比較はできません。
- 当ファンドについては、税引き前収益分配金を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- \* 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

### ※ 各資産クラスの指数

- 日本株 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)  
東京証券取引所市場第一部に上場する全ての日本企業(内国普通株式全銘柄)を対象として算出された株価指数で、配当を考慮したものです。
  - 先進国株 MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込み、円ベース)  
MSCI Inc. が算出・公表している、日本を除く先進国の株式を対象として算出されたグローバルな株価指数で、配当を考慮したものです。
  - 新興国株 MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)  
MSCI Inc. が算出・公表している、世界の新興国の株式を対象として算出された株価指数で、配当を考慮したものです。
  - 日本国債 NOMURA-BPI 国債  
野村証券株式会社が算出・公表している、日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。
  - 先進国債 FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし、円ベース)  
FTSE Fixed Income LLC が算出・公表している債券インデックスで、日本を除く世界の主要国の国債の価格と利息収入を合わせた総合投資収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。
  - 新興国債 J.P.Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド (円ベース)  
J.P.Morgan Securities LLC が算出・公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした、時価総額ベースの指数です。
- TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。  
MSCIインデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。  
NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。  
FTSE世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。  
J.P.Morgan ガバメント・ボンド・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

上記各指数の騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しております。  
株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。  
また、株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的にBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●ファンドは、主に国内株式に投資を行いますので、株式の価格変動等の影響により基準価額は上下し、投資元本を割り込むことがあります。●ファンドに生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。●お申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目録見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。●市況動向、資金動向その他の要因等によっては、ファンドの特色に合致した運用ができない場合があります。

設定・運用は BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社

金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第406号

[加入協会] 一般社団法人 投資信託協会 / 一般社団法人 日本投資顧問業協会 / 一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

# BNYメロン・日本株式ダイナミック戦略ファンド

## 愛称: 臨機応変

追加型投信 / 国内 / 株式・株価指数先物取引 / 特殊型(派生商品型)

基準日: 2018年12月28日(金)

### お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 収益分配金を再投資する場合は1口の整数倍とします。 ※「一般コース」および「自動継続投資コース」があります。詳しくは、販売会社までお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して5営業日目より、申込みの販売会社でお支払いします。
申込締切時間	営業日の午後3時までに販売会社が受付けた分を当日の申込み分とします。
購入の申込期間	平成30年10月16日～平成31年4月15日 ※申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、委託会社の判断により、大口のご換金の場合には制限を設けさせていただく場合があります。
購入・換金 申込受付中止 および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、委託会社は、受益権の購入・換金の申込みの受け付けを中止することおよびすでに受付けた申込みの受け付けを取消す場合があります。
信託期間	平成38年10月13日まで(当初信託設定日:平成28年10月31日) ※委託会社は、信託期間の延長が受益者に有利であると認めるときは、信託期間を延長することができます。
繰上償還	受益権の総口数が10億口を下回ることとなった場合等には、繰上償還することがあります。
決算日	毎年1月14日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。 委託会社の判断で分配を行わないことがあります。 ※「自動継続投資コース」の場合、収益分配金は税引き後再投資されます。
信託金の限度額	5,000億円
公告	日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎決算後および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に交付します。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除の適用が可能です。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的にBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●ファンドは、主に国内株式に投資を行いますので、株式の価格変動等の影響により基準価額は上下し、投資元本を割り込むことがあります。●ファンドに生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。●お申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。●市況動向、資金動向その他の要因等によっては、ファンドの特色に合致した運用ができない場合があります。

設定・運用は BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社

金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第406号

[加入協会] 一般社団法人 投資信託協会 / 一般社団法人 日本投資顧問業協会 / 一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

# BNYメロン・日本株式ダイナミック戦略ファンド

## 愛称: 臨機応変

追加型投信 / 国内 / 株式・株価指数先物取引 / 特殊型(派生商品型)

基準日: 2018年12月28日(金)

### ファンドの費用・税金

ファンドの費用		
投資家が直接的に負担する費用		
購入時手数料	購入価額× <b>上限3.78%(税抜 3.5%)</b> (手数料率は販売会社が定めます。) ※自動継続投資契約に基づいて収益分配金を再投資する場合は、申込手数料はかかりません。	《当該手数料を対価とする役務の内容》 販売会社が、商品および関連する投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務コストの対価として、購入時に頂戴するものです。
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額× <b>0.3%</b>	受益者が、投資信託を解約する際に支払う費用のことで、長期に保有する受益者との公平性を確保するため、信託財産中に留保されるものです。
投資家が信託財産で間接的に負担する費用		
運用管理費用 (信託報酬)	信託財産の日々の純資産総額× <b>年率1.8792%(税抜 1.74%)</b> 運用管理費用(信託報酬)は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支払われますが、日々費用として計上されており、日々の基準価額は信託報酬控除後となります。 運用管理費用(信託報酬)の配分は、以下のとおりです。	
合計	<b>年率1.8792% (税抜 1.74%)</b>	《当該運用管理費用を対価とする役務の内容》
(委託会社)	年率0.85%(税抜)	信託財産の運用指図(投資助言会社による運用に関する投資助言を含む)、目論見書・運用報告書の作成等
(販売会社)	年率0.85%(税抜)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
(受託会社)	年率0.04%(税抜)	信託財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行、信託財産の計算等
当ファンドの投資助言会社への報酬	委託会社の受取る報酬には、当ファンドにおいて運用に関する投資助言を受けている投資助言会社への報酬が含まれます。 報酬額=信託財産の日々の純資産総額×年率0.162%(税抜 0.15%)	
その他費用・手数料	監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用、目論見書等の作成、印刷および交付費用ならびに公告費用等、その他の管理、運営にかかる費用、組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、先物・オプション取引等に要する費用等が、信託財産より支払われます。 ◆その他費用・手数料については、資産規模および運用状況等により変動しますので、料率、上限額等を表示することができません。	

※上記費用の総額につきましては、投資家の皆様の保有される期間等により異なりますので、表示することができません。

### 税金

- ・税金は表に記載の時期に適用されます。
- ・以下の表は、個人投資家の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税、復興特別所得税 および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
換金(解約)時 および償還時	所得税、復興特別所得税 および地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して20.315%

※上記は、平成30年9月末現在のものです。

※少額投資非課税制度「愛称: NISA(ニーサ)」、未成年者少額投資非課税制度「愛称: ジュニアNISA(ジュニアニーサ)」をご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社までお問い合わせください。

※法人の場合は、上記とは異なります。

※税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家にご確認されることをお勧めします。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的にBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●ファンドは、主に国内株式に投資を行いますので、株式の価格変動等の影響により基準価額は上下し、投資元本を割り込むことがあります。●ファンドに生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。●お申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。●市況動向、資金動向その他の要因等によっては、ファンドの特色に合致した運用ができない場合があります。

設定・運用は

BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社

金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第406号

[加入協会] 一般社団法人 投資信託協会 / 一般社団法人 日本投資顧問業協会 / 一般社団法人 第二種金融商品取引業協会



# BNYメロン・日本株式ダイナミック戦略ファンド

## 愛称: 臨機応変

追加型投信 / 国内 / 株式・株価指数先物取引 / 特殊型(派生商品型)

基準日: 2018年12月28日(金)

### 委託会社、その他関係法人

**委託会社** BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社(信託財産の運用指図等)

**投資助言会社** 日興グローバルラップ株式会社(運用に関する投資助言)

**受託会社** 三菱UFJ信託銀行株式会社(信託財産の保管・管理業務等)

**販売会社** (募集・販売の取扱い等) 販売会社のご照会先は、以下をご参照ください。

お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください。

金融商品取引業者名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業 協会
とちぎんTT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第32号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	
ほくほくTT証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第24号	○			
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○			
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○			

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的にBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●ファンドは、主に国内株式に投資を行いますので、株式の価格変動等の影響により基準価額は上下し、投資元本を割り込むことがあります。●ファンドに生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。●お申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。●市況動向、資金動向その他の要因等によっては、ファンドの特色に合致した運用ができない場合があります。

設定・運用は BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社

金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第406号

[加入協会]一般社団法人 投資信託協会 / 一般社団法人 日本投資顧問業協会 / 一般社団法人 第二種金融商品取引業協会